

(4) 中村小学校

学 校 長 村 松 人 巳
校内研究代表者 上 田 美 緒

1. 研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり —各教科等における見方・考え方を働かせて—

2. 主題設定の理由

学習指導要領には、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指し、資質・能力ベースの授業、主体的・対話的で深い学びの実現、教科等の見方・考え方を働かせる授業が位置付けられている。その具現化に向け、令和3年度から、高知県教育委員会「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト実践研究協働校事業として、中村中学校と共に小中学校9年間の学びをつなぐ資質・能力を育む授業づくりの実現に向けた研究実践に取り組み、系統性を踏まえた授業づくりができつつある。今年度は、「令和の授業を創る」推進プロジェクトにおける令和の授業づくり講座（国語科）を通してICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実を図るとともに「主体的・対話的で深い学び」へとつながる授業づくりを目指していく。また、引き続き研究教科を国語科と算数科とし、これまでの研究の成果を生かして各教科等における見方・考え方を働かせる学習活動や児童の姿を明確にした授業改善に努めていく。

令和5年度の全国学力・学習状況調査及び高知県学力定着状況調査において、国語・算数・理科の3教科とも全国平均を上回り、かつ全国平均を+5pを超えて目標値を達成する教科もある等、学力向上の取組成果が見られる。しかし、1月実施の標準学力調査においては、1年国語で全国平均を下回った。また、評定1児童の割合の目標値を下回る等、学力の二極化がみられる。実際の授業では、児童の日常場面や身近な場面、他教科と関連させた課題設定、児童から課題や問いを生み出し、解決していく単元構想、導入や展開を工夫することで主体的に取り組む児童の姿が多く見られるようになってきた。その一方で、自らの学びを自覚したり、深めたりする対話までには至っていない。また、自分の考えを記述したり、根拠をもとに説明したりすることに課題のある児童や、受動的で、自分一人でやり切る力に課題のある児童も依然として見られ、学力差もある。学年間で共通理解を図りながら、基礎的な学力の定着を低学年から確実に積み上げていくとともに、課題の要因を明らかにしながら授業改善し、学力向上を目指していく必要がある。

以上のような背景や本校児童の実態から、研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり—各教科等における見方・考え方を働かせて—」としている。「主体的・対話的で深い学び」については、問題解決に向けて、習得した知識・技能を活用し、他者と関わりながら自己の学びを自覚し、新たに自分の考えや思いをもとに創造していく主体的・協働的に学び合う活動と捉えている。学習指導要領の趣旨を生かした学習指導において、教科等の見方・考え方を働かせる学習指導となるよう、指導過程や指導方法、発問の工夫、ICTの効果的な活用等、教師の指導性を適切に発揮することで学びや課題に挑戦する意欲を喚起し、子ども同士の関わり合いの質、学びの質、資質・能力の質を高めていきたい。

3. 研究の進め方と方法

<研究内容>

- (1) 身に付けさせたい資質・能力の明確化と例えば国語科においては有効な言語活動、算数科においては数学的活動の設定等、評価規準・評価方法の明確化

- (2) 各教科等の「見方・考え方」を働かせた学習過程の研究
- (3) 「授業改革ハンドブック」等をもとにした授業の質的改善の研究
- (4) 国語科・算数科で付けたい力と他教科等との関連を図るカリキュラム・マネジメント表の活用
- (5) 1人1台端末のタブレットを活用した授業づくりの推進

<研究方法>

1人年間1回以上公開授業を行う。全教職員で研修を深める研究授業においては学習指導案を作成する。学年や低・中・高学年ブロックを中心に教材研究、模擬授業や先行授業を行う。特別支援学級担任及び専科教員については、ブロックまたは学年で授業を見合い、授業改善に生かしていく「見て見て授業」を行う。授業後は「身に付けさせたい資質・能力」をその授業を通して身に付けることができたのかを中心に据え、そのための視点を明確にして研究協議を行う。また、各自で研究授業のまとめを作成する。

<研究組織>

- ・研究推進委員会の計画的な実施（原則毎週月曜日）
- ・3部会「学力向上部会」「仲間づくり部会」「健康・体力づくり部会」の内、本研究に関しては「学力向上部会」が担う。

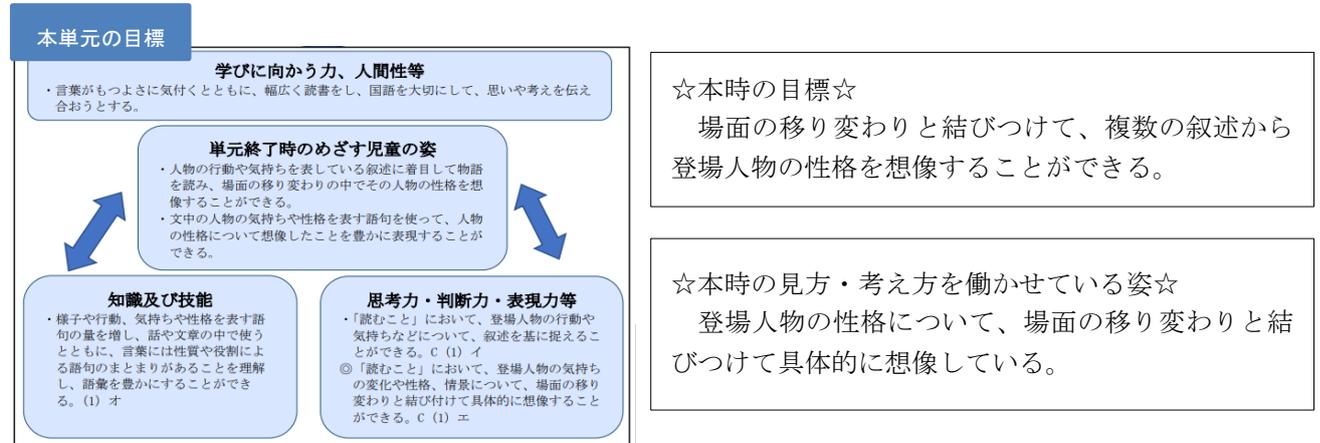
4. 研究の取組

<授業実践>

「令和の授業を創る」推進プロジェクトにおける令和の授業づくり講座（国語科）授業研究会

◆授業研究会 令和6年11月29日◆

【第3学年】 国語科 単元名「しょうかいするよ！○○はこんな人！」



会話文や地の文を根拠に、登場人物の性格を想像する

校内研究授業

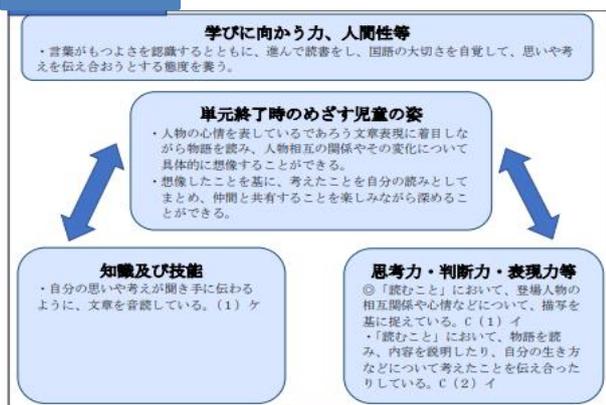
5月21日	国語科	6年2組	風切るつばさ
6月12日	算数科	2年1組	100より大きい数をしらべよう
6月27日	国語科	4年	広告を読みくらべよう

7月 3日	国語科	5年2組	新聞記事を読み比べよう
10月16日	算数科	6年1組	およその面積と体積を求めよう
10月23日	算数科	1年1組	かたちあそび
11月13日	算数科	5年1組	比べ方を考えよう
11月29日	国語科	3年2組	モチモチの木
12月 4日	国語科	1年2組	思い出してかこう
1月22日	算数科	3年1組	分数を使った大きさの表し方を調べよう
1月29日	国語科	2年2組	同じところ、ちがうところくらべてつたえよう

◆研究授業 令和6年5月21日◆

【第6学年】 国語科 単元名「人物どうしの関係について話し合おう」

本単元の目標



☆本時の目標☆

登場人物の心情の変化とその理由について、人物関係図や叙述を基に捉えることができる。

☆本時の見方・考え方を働かせている姿☆

自分が想像したことと、友だちが想像したことを比較しながら自分の考えを広げたり深めたりしている。



登場人物の相互関係や描写を基に捉え、考えたことを伝え合う

5. 今年度の成果と課題

- 令和の授業づくり講座を通して、単元で身に付けさせたい力を明確化し、子どもが学び方を選択し学習を進めていく個別最適な学びの研究を進めることができた。個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図ることの重要性を学校全体として確認することができた。
- 国語科及び算数科を研究教科とし、今年度の令和の授業づくり講座における研究授業を通して、子どもが興味関心をもち、本気で課題解決したくなるような課題設定をすることで、主体的で対話的な学びにつながり、子どもの思考に沿った学習過程となるような単元及び授業構想をしていくことが重要であると学ぶことができた。
- 学習指導要領解説を読み解くとともに、資質・能力、見方・考え方の捉え方を教員間で共有し研究を進めていく必要がある。
- 学習を通して、児童が自己の学びを自覚することができる学習過程の工夫（課題設定、発問、対話場面等）や指導と評価の充実を図ることが必要である。
- ICTを効果的に活用した単元構想や学習過程を考え、研究授業だけでなく日常の授業改善につながるよう、さらに研究を進めていく必要がある。
- カリキュラム・マネジメント表を見直し、国語科及び算数科を中心に、他教科等と関連づけて、意図的・計画的かつ効率的に資質・能力を身に付けていくことが必要である。